

ジャビットカップチャンピオン大会 2020 大会約款

本大会はアマチュア規定、及び公認野球規則 2020、競技者必携 2020 を適用し、下記の大会約款と各会場でのローカルルールを優先する。

- ① **審判員** 各連盟の審判部は指定された試合の 1 時間前までに、出場チームの監督、コーチ等、ベンチに入るスタッフ以外の連盟審判員 2 名を派遣する。また、審判技術委員は当該審判員が裁定に苦しむときや規則適用の誤り、監督などのアピールに対して協議に加わり直ちに解決する。
- ② **試合イニング** 試合は 7 回戦とするが、試合開始後 1 時間 30 分（決勝は 2 時間）を経過したら 5 回以前でもそのイニングを最終回とし、均等回の得点で勝敗を決める。
- ③ **コールドゲーム**（決勝戦は採用しない） 5 回終了時以降、7 点以上の得点差がついた場合はコールドゲームとする。
- ④ **特別継続試合** 制限時間内で暗黒、降雨などにより 5 回以前に中止になった場合は後日、継続試合として行う。また、5 回を過ぎて同点で試合が中止になった場合も後日、継続試合として行う。
- ⑤ **タイブレーク方式** 7 回完了、若しくは試合開始から 1 時間 30 分（決勝は 2 時間）を経過して同点の場合はタイブレーク方式を行う。継続打順で前イニングの最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とし、無死一塁・二塁の状態で行う延長戦を行う。タイブレーク方式は 1 イニング行い、その時点で勝敗が決定しない場合は、もう 1 イニング同じ条件で行う。それでも勝敗が決定しないときは抽選で勝敗を決定する。但し、大会運営上、タイブレーク方式を行うことが難しいと本部が判断した場合は抽選で勝敗を決定する。
- ⑥ **出場資格** 地区大会で優勝した単独チーム。2020 年度は、連盟内協議によってチャンピオン大会への参加を許可されたチームの出場も認める。但し、出場権を得た優勝チームが大会期間中に開催される軟式野球連盟主催の上部大会等に出場する場合は、次位チームが出場する。選手登録は地区大会登録メンバーとし、他チームからの補強は認めないが、転校生などの新入部員等は所属連盟の承認を得、抽選会当日までに事務局に届け出て出場選手登録をすることができる。
- ⑦ **投球制限** 全軟連・学童部の投球規定を適用し、投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、一人の投手は 1 日 70 球以内を投球できる。試合中に 70 球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。ボークにもかかわらず投球したものは投球数とする。また、一日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合や、7 回を終了して同点でタイブレークとなった場合、1 日 70 球以内であれば引き続き投球することが出来る。すなわち、通算で 70 球とする。
- ⑧ **ベンチ入り** ベンチ入り出来る者は事前に登録されたチーム引率者（代表者）、監督、コーチ 2 名、スコアラー 1 名、マネジャー 1 名と、選手 20 名以内（3 年生以上）とする。但し、熱中症対策として、保護者（女性）2 名以内をベンチに入れることが出来る。また、代表、スコアラー、マネジャー、熱中症対策保護者はチーム帽子とスポーツウエア等（短パン不可）を着用する。なお、試合前の練習とシートノックは指導者（背番号 28、29、30）が行い、うち 1 名はブルペンでの捕手を認める（試合開始前までの間を許可する）。

- ⑨ **使用球** (財)全日本軟式野球連盟公認球(ナガセケンコーJ号)とする。
- ⑩ **用具等** 試合中打者、走者、次打者、ベースコーチ、バットボーイ、ボールボーイは公認の両耳付きヘルメット、捕手は公認マスク、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファールカップを着用し、バットは公認マーク入りを使用する。監督、コーチ、選手は同一ユニホーム(Tシャツ可)とする。なお、ベンチ内での電子機器(携帯電話、パソコン、カメラ等)及びメガホンの使用は禁止とする。
- ⑪ **マナー** ベンチ及びスタンドでは笛や太鼓などの鳴物の使用を禁止し、相手チームへの野次や挑発的な行為はしない。同類の行為を続けた場合はチーム責任とし、監督を退場とする。また、チームでゴミ袋を用意してゴミは持ち帰ること。
- ⑫ **その他**
- (1) ベンチは抽選会で決定した組み合わせ番号の若いチームを一塁側とし、試合前のシートノックは後攻のチームから各5分間とする。但し、大会運営上、シートノックを行うことが難しいと本部が判断した場合は行わないものとする。
 - (2) 監督・主将は前の試合開始後60分を経過するか、5回終了時までには試合会場の本部にメンバー表4枚を提出し、球審立会いのもと両チーム主将で攻守を決定する。
 - (3) 次試合の先発バッテリーは前の試合開始後60分を経過するか、5回終了以降にグラウンド内で投球練習を行うことができる。
 - (4) 投手の準備投球は初回6球以内とし、次回からは3球とする。
 - (5) 両チームの指導者は試合終了後にグラウンド整備を行うものとする。
 - (6) 本大会参加者は全員「スポーツ安全保険」に加入する。また、大会中の事故には同保険の範囲内でのみ対応される。
 - (7) 極端に攻撃が長引く場合は選手の体調を考慮して主催者・審判員は適宜給水休憩を取らせることとする。なお、休憩時間は試合時間に含めない。休憩時間は5分を目安とするが、状況により選手の体調管理を優先して設定する。
 - (8) 雷や地震、光化学スモッグ、その他災害等により試合を中断、再開、中止する場合は主催者、会場幹事責任者(開催会場の役員・実行委員)、審判部長(不在の場合は副部長)の三者で協議のうえ判断し、各試合会場の幹事連盟、審判技術委員に通達するものとする。なお、雨天時の試合中断、再開、暑さによる給水タイムは各会場の審判員、または会場幹事連盟、審判技術委員で決定する。